

## 令和2年度学生による授業評価にもとづく学長表彰

### オンラインリフレクションシートによる教育支援

放射線技術科学科 武藤 裕衣

現在、授業の理解度を図り、教員と学生の双方向のコミュニケーションに役立つツールとしてリフレクションシートの導入が本学でも行われている。

今回の提案は、本学で2020年度に導入したイーラーニングシステム（Leaning-Box）をリフレクションシートとして活用することである。

オンラインリフレクションシートを実施することで、①オンライン授業でも実施可能となり、②配布・回収・集計にかかる人的・時間的資源を省力化できることから、授業時間を有効活用できる。加えて、③授業時間終了間際にリフレクションシートを実施したい場合でも次の時間の授業に支障を来す恐れをなくすことができ、教員はより簡便にリフレクションシートを実施できる。学生からのリフレクション実施回数が増えることによる期待される教育効果は、以下の通りである。①授業内容の理解が高まる②教員と学生の対話・双方向のコミュニケーション回数が増え学生の大学への帰属意識を高めることにつなげられる③教員の授業への熱意を学生が感じられる機会を増加できる。

### 学生授業評価高得点賞受賞にあたって

放射線技術科学科 栃谷 史郎

この度は学生授業評価高得点賞受賞の栄に浴しましたこと、大変に有難く感じております。2020年度はコロナ禍により講義運営の形式も変更を強いられ、年度当初より遠隔講義を導入せざるを得ないという状況でした。そのような環境での遠隔講義実施やe-Learning実施にあたり、大学事務局のサポートや他の先生との情報共有はとても貴重なものでした。そして、私自身が以前から遠隔講義に興味をもっていたことと、遠隔講義やe-Learningと私の担当する基礎医学とはとても相性が良いのではないかとこの予感があったため、面白がって講義を進めたことが良い評価につながったかと思っております。今後もさらなる研鑽を重ね、より良い講義・実習の内容・形式を追求していきたいと考えます。

最後になりますが、日々の講義運営においてご協力をいただいております先生方に改めて心より御礼を申し上げます。

## 学生満足度を上げるための授業への取り組み

放射線技術科学科 松浦 佳苗, 武藤 裕衣

放射線物理学Ⅰは放射線技術科学科1年次開講科目で、学生にとって最初に受講する専門基礎科目であり、また2年次以降の専門基礎・専門科目を学ぶ上での基礎となる科目である。昨年までも様々な取り組みを行ってきたが、今年度は特に学生の自己学習のサポートツールとして learning Box を用いた学習コンテンツを作成した。学習コンテンツは單元ごとに重要事項をまとめた穴埋めノートを確認した後確認テストに進み、單元ごとに知識確認ができるようにした。また、確認テストを一定基準クリアしたら次の單元に進めるようにし、解答できないままでは進めない仕様とした。これにより学生にわからないままで終わらせないこと、繰り返し学習をすること、「わかった」を増やして学習意欲を持たせることを目標とした。授業評価コメントおよび試験結果より、学生は learning Box を有効に活用し、日々の学習習慣に繋がっていると思われた。今後も学生からの意見をふまえ、学生にとってわかりやすく学びやすい授業科目を目指したい。

## ペア学習における学生の学び — 栄養教育論Ⅲ（講義） —

医療栄養学科 堀田千津子

栄養教育論Ⅲの取り組みについて紹介いたします。

本講義は、内容を傷病者における栄養教育とし、「知識の定着」と「レポートの未提出者0」の2点を目的にペア学習を取り入れます。講義の流れは1. 学生によるパワーポイントを用いた過去の国家試験問題解説。2. 栄養教育の実情を学習。3. 課題プリントを用いたペア学習。4. 課題プリント提出、とします。

学生には予習として、課題プリントの症例について概要や栄養アセスメントなどの記載を促します。当日は、2. に続き、学生がペアで講義内容を踏まえたディスカッションを行い、症例の本質的要因・栄養診断・栄養介入計画の最適案をプリントに記載。課題を提出させます。このペア学習は、学生が主体的・協働的に学ぶ方法であり、「思考・判断・表現」の能力を育て、目的に掲げる2点を向上させた印象です。

受講生が管理栄養士となってからも、主体的に能力向上を目指す姿勢を身につけられる講義にしたいと思います。

## 私の情報リテラシー教育

医用情報工学科 梶山 純

情報リテラシーという科目で、何を、どこまで、どのように教えればよいかは、担当者共通の悩みだと思う。私自身は、長年の情報リテラシー教育を通して、以下の3点を心掛けている。

まずは、学生の情報スキルと現状の把握である。毎年授業の冒頭でアンケート調査を行い、その集計結果に基づいて、学生の不安を解消し、障害学生の事前対応を行うようにしている。

次に、学生の状況と今後の必要性を踏まえ、文字入力技術と表計算に重点を置いて指導している。あれやこれやと欲張って結局何も身に付かない状況は避けられていると思う。

最後に、学生の経験と能力差に応じた個別対応である。皮肉なことに、コロナ禍に入ってから、電子メール、SUMS-POのQ & A、Zoom個人ミーティングなど複数のICT手段を組み合わせることで、これまで以上のきめ細かな対応が可能となった。手間はかかるが、今後も、未来の医療を支える学生の力になれるよう、鋭意サポートしていきたい。

## 初めての「解剖学」ZOOM講義－臨場感のある授業をめざして

看護学科 有馬 寧

解剖学は学生にとって、初めての基礎医療知識であり、専門知識の入口でもあります。学習する内容が多く、特殊な名称等暗記が必要な部分も多いので、講義時は、常に学生に興味を持ってもらえるよう、理解しやすいように工夫しています。

2020年2月以降、新型コロナウイルスの影響により、大学で通常の授業が困難になりました。本大学もオンライン授業となり、今まで経験したことがない授業形式での講義がスタートしました。新たに導入されたZOOMを用いたオンライン講義では対面式と同じように、重点内容をパワーポイントでまとめ、解剖図や実習模型を用いて、人体の立体構造について解説しました。それと同時に、三台のカメラを設置し、同時撮影を行い、スクリーンを介して、解剖模型のそれぞれの詳細な形態特徴を説明し、学生により立体的、より臨場感を感じてもらえる講義を心がけました。

また、私は各学部・学科の専門特徴にあった教科書を選び、講義時は日常生活での身体的な状況等と学習内容の関係に結びつけて、各学科の専門性に合った内容で具体的に説明するなど、医療人として、最初の知識と自覚を身につけてもらえるように常に意識して講義を行っています。